

景気観測(LOBO)

《2017. 4~6月》

平成29年度 第1四半期

日立商工会議所
情報化委員会

I. 調査概要について

(1) 調査期間並びに調査基準

調査期間	四半期毎に実施、時期としては7, 10, 1, 4月
調査基準	四半期毎の景況感を対前年同期と比較

(2) 調査対象並びに回収状況

業種	調査対象件数	回収件数	回収割合 (%)
製造業	25	22	88.0
小売業	30	26	86.7
建設業	20	17	85.0
サービス業	25	21	84.0
計	100	86	86.0

(3) 調査内容並びに調査方法

調査項目	業界全体の動向と関心事項 売上高の推移と変化要因 採算・仕入単価・従業員の変化状況
調査方法	FAXの活用

(4) 調査結果の採用

商工会議所として、景況の判断資料とすると共に一般会員にも「かいぎしょNEWS」での掲載を中心に景気動向として発表。協力事業所に対しても結果送付。

◎ LOBOとは

「CCI (Chamber of Commerce and Industry)-Quick Survey System of Local Business Outlook」(商工会議所早期景気観測)からとった略称です。

◎ DI値(景気判断指数)について

- ・ DI値は調査項目についての景況判断状況を表す。(△で上向き ▲で下向き)
- ・ 強気、弱気等景況感の相対的な広がりの意味する。
- ・ $DI = (\text{増加} \cdot \text{好転} \cdot \text{不足等の回答割合}) - (\text{減少} \cdot \text{悪化} \cdot \text{過剰等の回答割合})$

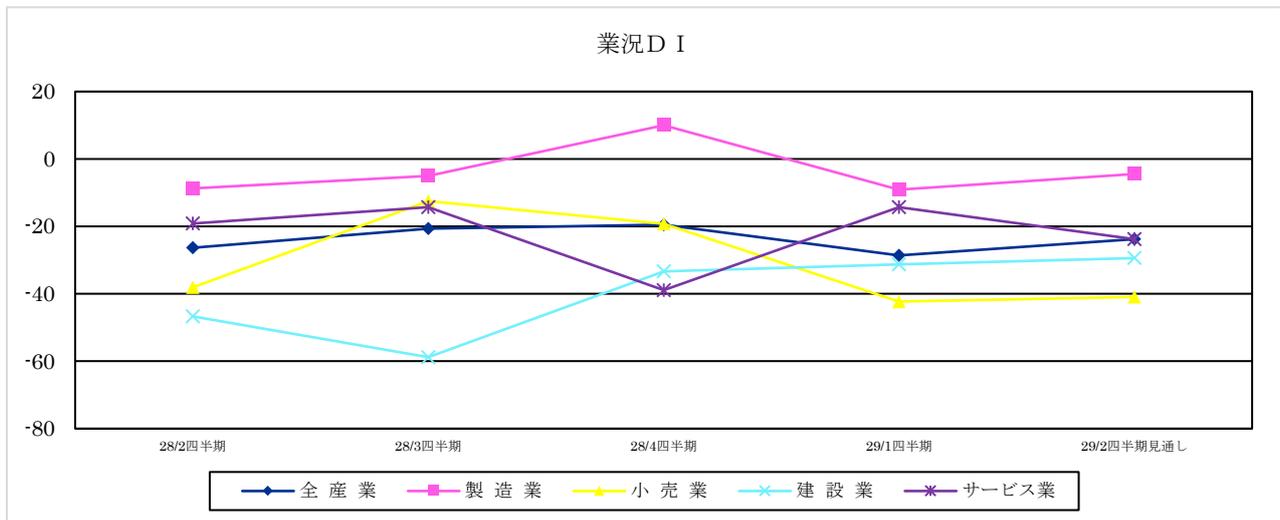
II. 業況判断について

- 全産業の業況は、▲26.7と前回調査時(▲19.5)から7.2ポイント悪化した。今後の見通しでは▲23.3となり、引き続き、業況改善に向けた動きは鈍い見通しとなった。
- 製造業では、▲9.1と前回調査時(△10.0)から19.1ポイント悪化した。今後の見通しでは▲4.5となり、若干改善を示すものの大きな変化は見られない見通しとなった。
- 小売業では、▲42.3と前回調査時(▲19.2)から23.1ポイント悪化した。今後の見通しでは▲34.6となり、依然厳しいとの見通しとなった。
- 建設業では、▲41.2と前回調査時(▲33.3)から7.9ポイント悪化した。今後の見通しでは▲29.4となり、改善を示すものの依然厳しい見通しとなった。

- サービス業では、▲14.3と前回調査時(▲38.9)から24.6ポイント改善した。今後の見通しでは▲23.8と悪化が広がり、一進一退との見通しとなった。

(1) 業況D Iの推移とキーワード

	平成28年度			平成29年度	
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し (7月~9月)
全産業	▲26.3	▲20.7	▲19.5	▲26.7	▲23.3
製造業	▲8.7	▲5.0	△10.0	▲9.1	▲4.5
小売業	▲38.1	▲12.5	▲19.2	▲42.3	▲34.6
建設業	▲46.7	▲58.8	▲33.3	▲41.2	▲29.4
サービス業	▲19.1	▲14.3	▲38.9	▲14.3	▲23.8



	キーワード		
	第1位	第2位	第3位
製造業	競争激化	自社製品	新規案件
小売業	独自性	節約志向	競争激化
建設業	受注減少	人材不足	オリンピック需要
サービス業	節約志向	人材不足	長時間労働

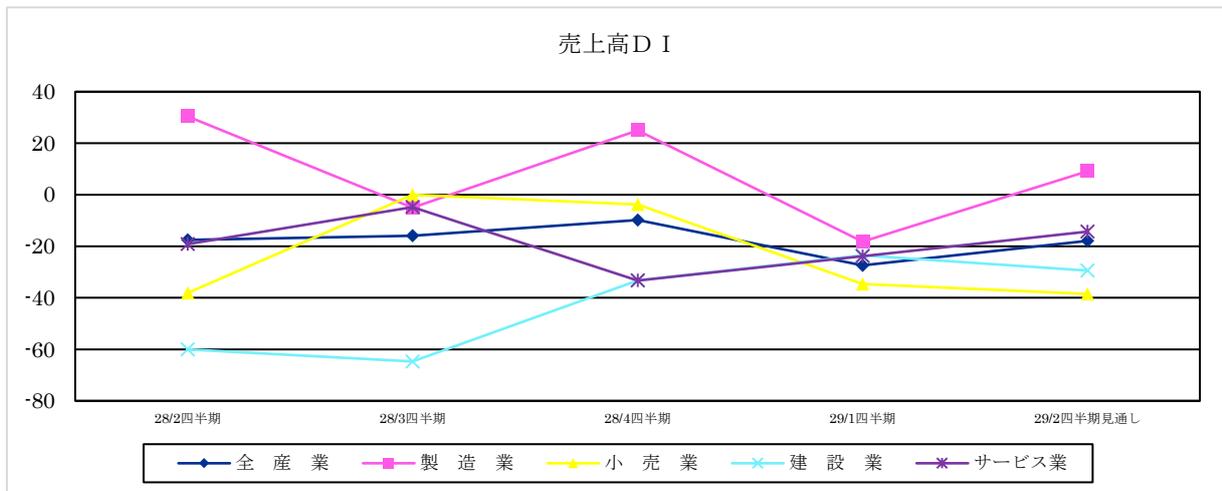
《全国との比較》

	平成29年度第1四半期		今後の見通し(7月~9月)	
	全国(6月)	日立	全国	日立
全産業	▲14.5	▲26.7	▲14.7	▲23.3
製造業	▲8.6	▲9.1	▲9.9	▲4.5
小売業	▲32.1	▲42.3	▲28.0	▲34.6
建設業	▲14.3	▲41.2	▲8.1	▲29.4
サービス業	▲8.8	▲14.3	▲13.1	▲23.8

(2) 売上高・採算・従業員の推移 (D I 値)

(売上高)

	平成28年度			平成29年度	
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し (7月~9月)
全産業	▲17.5	▲15.9	▲9.8	▲25.6	▲18.6
製造業	△30.4	▲5.0	△25.0	▲18.2	△9.1
小売業	▲38.1	0.0	▲3.8	▲34.6	▲38.5
建設業	▲60.0	▲64.7	▲33.3	▲23.5	▲29.4
サービス業	▲19.1	▲4.8	▲33.3	▲23.8	▲14.3



(採算)

	平成28年度			平成29年度	
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し (7月~9月)
全産業	▲23.8	▲23.2	▲20.7	▲28.4	▲17.9
製造業	△8.7	▲10.0	0.0	▲9.1	△4.5
小売業	▲38.1	▲12.5	▲11.5	▲38.5	▲38.5
建設業	▲60.0	▲47.1	▲38.9	▲41.2	▲47.1
サービス業	▲19.1	▲28.6	▲38.9	▲19.0	▲9.5

(従業員)

	平成28年度			平成29年度	
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し (7月~9月)
全産業	△7.5	△20.7	△20.7	△14.0	△14.0
製造業	△17.4	0.0	△25.0	△18.2	△13.6
小売業	△9.5	△8.3	△11.5	△15.4	△15.4
建設業	△6.7	△35.3	△22.2	△17.6	△11.8
サービス業	▲4.8	△42.9	△27.8	△4.8	△14.3

(3) 業種別概況

業 種	概 況
製 造 業	<p>家電製品関連、建設用機械では依然低迷が継続しているが、自動車関連や汎用機械、電子部品での受注増が全体的に業況を押し上げている。主力取引先からのコストダウン要請や外注再編の影響など企業を取り巻く環境は未だ厳しい。</p> <p>個別では「出荷額は増加傾向にあるものの、企業間の格差を感じる。(組合)」「小規模事業にも大企業が進出しつつあり脅威である。(機械部品製造)」「技術者及び新卒が集まらない。(システム開発関係)」などの報告があった。</p>
小 売 業	<p>消費者の低価格・節約志向が続き、より価格に敏感になっている模様。ゴールデンウィークは好天で人出はあったが売り上げに貢献したとの報告はなかった。</p> <p>個別では、「個人商店が生き残るには、チェーン店にはない個性で立ち向かわなければならない。(食料品販売店)」「車の性能が向上し長持ちするようになり、中古車需要が以前に比べて減少している。(中古自動車販売)」などの報告があった。</p>
建 設 業	<p>年度初めで公共工事の発注数が減少しており、民間工事の受注競争が激化し採算が低下、業界全体の景気は低迷している。また、慢性的な人材不足による工期の遅れの問題や、人材確保のための人件費の問題も依然として足かせとなっている。</p> <p>個別では、「県内でも地域によって仕事量の格差がある。市場調査などを考えていかなければならない。(土木工事)」「オリンピック需要はあるが、人材不足もあり作業消化が難しい。(設備工事)」などの報告があった。</p>
サービスマ業	<p>物流関連では、出荷物量が減少していく一方、ドライバー不足は継続しており人件費の問題等収支バランスの悪化は続いている。</p> <p>観光・飲食業関連では、個人・会社関係共に宴会・宿泊予約件数の回復は未だ見られず、根強い節約志向が伺える。観光客誘致の有効策を模索している状況となっている。</p> <p>個別では、「排ガス規制適合車の価格が高騰し、現在の運賃では車両更新は難しい。(運送業)」「スタッフ確保・定着・育成のために労働環境を改善していく必要がある。(ホテル業)」「コンビニの参入による影響が大きく、他店との競争が激しくなった。(飲食業)」などの報告があった。</p>